

4-(1)-⑪ 社会貢献活動

藝術学舎 [https://gakusha.jp/]

藝術学舎は、京都造形芸術大学と姉妹校の東北芸術工科大学が共同で企画プロデュースする社会人のための新型アートカレッジ(公開講座)です。

現在、東京・港区の明治神宮外苑敷地内にある外苑キャンパスを拠点とする「東京藝術学舎」と、大阪・梅田にある大阪サテライトキャンパスを拠点とする「大阪藝術学舎」で年間250以上の講座を展開しています。

講座は、隔週開講・全5回・3ヶ月を基本形とし、様々な生活リズムに合わせられるよう午前・午後・夜間の3つの時間帯に分けて展開されています。また、一部の公開講座では京都造形芸術大学通信教育部との単位連携も行っています。

これまで約5,000名の方々が参加し、年齢は10代から90代までと、あらゆる世代が集い、学びを深めています。

京都芸術劇場 春秋座 [http://www.k-pac.org/]

京都芸術劇場春秋座は、2001年に京都造形芸術大学内に開設された、わが国の高等教育機関でははじめて実現した大学運営による本格的な劇場です。

古典芸能を新世紀へと受け継ぐことはもとより、新たな創作活動を通じてさらなる表現の可能性を追求する実験と冒険の場でもあります。

舞台芸術を通じて京都における伝統と創造の姿を全国へ、そして世界へと発信します。

芸術文化情報センター ピッコリー [http://www.piccoli.jp/]

ピッコリーは、<京都文藝復興>を掲げる京都造形芸術大学が、豊かな文化環境の中で子どもたちが育つことを願って、1978年に開設したこども図書館で、だれでも利用できます。蔵書として、絵本や児童文学・児童文化に関する資料約17,000冊を所蔵しています。本の閲覧や貸出のほか、子ども向け映像資料の閲覧や、館内に設置したおもちゃの利用などができます。子どもと本をつなぐ催しとしておはなし会や、芸術大学の特色を活かして工作会を開催しています。

康耀堂美術館 [http://www.koyodo-museum.com/]

6000坪の森の中に佇む康耀堂美術館は、2001年7月に佐鳥電機株式会社前会長佐鳥康郎氏の個人美術館として緑豊かな八ヶ岳の麓、長野県茅野市に開館いたしました。

佐鳥康郎初代館長が急逝した後、2005年8月より京都造形芸術大学が運営を引き継ぎ、世界的に活躍している日本画家の千住博氏を迎え、大学附属美術館として2006年4月、新たに開館いたしました。

日本画家高山辰雄画伯の作品を中心に、近現代の日本画・油画・水彩画・版画など370点あまりを収蔵し、年4回のコレクション展を開催しています。

Galerie Aube /ギャルリ・オーブ [http://aube.kyoto-art.ac.jp/]

2005年に開設された美術展示ホールです。

ギャルリ・オーブで開催される展覧会は、生の豊かさとは何かを問い、美を感じる心を育てる契機となることを企画方針として、国内外のすぐれたアーティストたちを選びすぐり長期・短期の展望のもとに旗色鮮明の作品を展示を行い、伝統を現代に活かす創作活動に挑戦するために開設されました。

“オーブ”とは、フランス語で「夜明け」「黎明」を意味し、このギャルリの活動が21世紀世界の美術の新しい夜明けとなることを願って名付けられました。

芸術文化情報センター

芸術文化情報センターは、京都文藝復興と日本文化再生をめざす教育研究活動の基盤となる施設として、2001年4月にオープンしました。図書館機能を中心に、映像ホール、ピッコリー、奈良本辰也記念文庫があります。

芸術系大学の特色に基づいた様々な資料を収集するほか、無線LANを配備し、パソコンを活用した学習・研究環境を広く一般に開放しています。

文明哲学研究所 [http://www.kyoto-art.ac.jp/iphv/]

文明哲学研究所は、「核」廃絶と世界平和に向け、本学の建学理念である『藝術立国』を目指すため、京都造形芸術大学と東北芸術工科大学の共同研究機関として2012年10月27日に設立されました。その為の活動として、平和文明会議(専門家による研究会議)や市民講座開講、藝術平和学を通じ、藝術的視座から新たな文明の哲学を創造する研究活動を行っています。